

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホーム あかね (やすらぎ館)		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1-7		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活をする上で安全に暮らすための規制はあるも入居者が個々のペースで生活している。一人一人の個性、生活様式、生活リズムに合わせ自宅にいるときと同じような「普通の生活」を大切にしている。また、地域との繋がりも大切にし、近隣の児童会館との交流、町内会の方々による健康体操は恒例となっている。毎月ボランティアによる歌レク、楽器演奏、昔話の読み聞かせ等、多彩な慰問があり、入居者の楽しみごととなっている。ご家族も交えたバーベキューも夏の恒例行事の一つである。当ホームは、散歩や買い物に行きやすい立地条件にあり入居者のニーズに柔軟に対応している。健康面においても、月2回のかかり付けクリニック主治医の往診、毎週の訪問看護師、必要時訪問歯科医による細やかな健康管理がされている。月1回の訪問理美容は入居者のリフレッシュ機会となっている。スタッフは「その人らしさ」の尊厳を守る意識を持ち、日々の暮らしを明るくゆったりと支えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成24年11月20日		

<家族等への情報提供>
 家族等が困っていること不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の生活の様子や健康状態の変化など情報提供しながら話し合う機会を持ち、そこでの意見や要望をサービスの実際に活かすよう努めている。また、「あかね便り」を定期的に発行して、認知症についての基本的理解への啓発や行事への参加を呼び掛けている。

<地域の人々との交流・連携への取り組み>
 地域の人々へ参加を呼び掛け健康体操教室を継続的に開催したり、児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加、まちづくりセンターとの協力関係構築、読み聞かせや演奏等のボランティアの受け入れ等で認知症への理解や広報に努めていると共に事業所の持つ機能を地域へ還元している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員の目に付くあらゆる所に掲示している。その理念を共有して業務に携わるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会にも参加している。おまつり等地域の行事に参加したり、避難訓練や運営推進会議には地域の方も参加して頂き、地域の方による健康体操教室や地域の児童の来訪も継続しており、良い関係が築けている。	地域の人々へ参加を呼び掛け健康体操教室を継続的に開催したり、児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加、まちづくりセンターとの協力関係構築、読み聞かせや演奏等のボランティアの受け入れ等で認知症への理解や広報に努めていると共に事業所の持つ機能を地域へ還元している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のボランティア慰問レクのポスターを掲示し地域の人々の参加を募っている。運営推進会議においても介護に関わる多様な情報を提供している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その月のテーマごとに自由に意見を出していたサービス向上に活かしている。又、福祉関係の情報交換も行っている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、利用状況や事業所の取り組み、地域との協力・連携について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	児童館の館長やまちづくりセンター所長には運営推進委員になって頂いており、意見を頂戴したり協力関係を築けるよう努めている。	市担当者と日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を全職員が周知できるように、定期的に勉強会を設けている。見守りを強化したセンサーマットや玄関ベルを使用することで安全面にも配慮しながら、身体的拘束をしないケアは自然に取り組まれている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を定期的に勉強会を開催し、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、常時確認できる状況にしている。また、学習会のときに職員に資料を配布している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を必要とする利用者はいないが、学習会では職員が定期的に学べる機会を設けている。必要な際には、支援できる体制になっている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって十分な説明を行い、納得しご理解いただけるよう配慮している。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設けたり、利用者や家族等がご意見を気兼ねなく表出できるような環境作りを心掛けている。要望はできる限り希望に添えるよう努めている。	家族等が困っていること不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の生活の様子や健康状態の変化など情報提供しながら話し合う機会を持っている。また、家族や来訪者等が苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りなどで職員の意見や提案を聞き入れ、他職員の意見も確認して反映させている。	日常業務やカンファレンスを通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員がやりがいを持って業務に携わり向上心を持って働けるように、勤務年数に応じて表彰の場を設けたり、研修費用の助成を行っている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報の提供等、スキルアップできる機会を積極的に提供している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加を機会に同業者との繋がりが出来るよう心掛けている。交流し情報交換を行うことで、サービスの質向上に活かされている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを積極的に傾聴し、受容することで信頼関係の構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、できる限り希望に添えるよう工夫することで信頼関係の構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話し合いの中から、必要としている支援を見極めるように努めている。各種の介護サービスを含めた社会資源の情報提供を行い、在宅生活の継続も視野に入れた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、お互い助け合う関係が保てるように努めている。共に喜び、悲しみや怒りは本人の気持ちになって聴くという姿勢を忘れず、関係の構築に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や来訪していただけるご家族だけではなく、面会の少ないご家族とは電話でお話をし、関係を築きながら共にご本人を支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい雰囲気作りに努め、ゆっくりして頂けるような対応を心掛けている。	健康体操教室を継続的に開催したり、児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加等で馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。又、難聴で会話に入っていけない等で孤立してしまいがちな利用者には職員がフォローし、良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの為、契約が終了した方のご家族から相談があればその都度応じており、関係継続に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心の内を話しやすい雰囲気作りを心掛け、本人の希望や意向などが常に把握できているよう努めている。言語でのコミュニケーションが困難な場合には、表情やしぐさ・行動などを通して本人の思いを把握するよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式を活用している。また、困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず担当ケアマネ等からの情報とご家族や知人からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握ができているよう努めている。入居後は、本人や家族等との会話の中から豊富な情報を得られるよう努めている。センター方式を使って情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時のバイタルチェックや会話の中からその日の心身状態を把握している。有する力を把握し、個々にあった役割を担ってもらえるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で介護計画に関しての話し合いの場を設けており、お互いの意見・情報・アイデア等を出し合い、本人や家族からの要望や意見も取り入れて介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と業務日誌から、全職員が情報を共有できるようになっている。情報を共有し実践している事が、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出やレクリエーション等、本人の要望に出来るだけ応じるよう努めている。又、連携している病院以外への受診も、ご家族やご本人の状況に応じて管理者が通院介助を行うなど柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には救命救急講習・避難訓練で協力を頂いている。地域のボランティアさんや児童会館には、利用者の生活の質向上の為に協力を頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に管理者から本人及び家族にお話し、納得の上で連携している医師がかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療が受けられている。	医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が訪問して日常の健康管理や相談をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合でも入居者さんのダメージが最小限に抑えられるように、病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、管理者や職員は頻繁に家族から情報を頂き、状態をその都度かかりつけ医に情報提供している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会ある毎にご本人やご家族からの意向を伺ったりお話す機会を設けている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急講習を受けたり事業所として定期的に講習会を開くなど、知識を職員に伝達し、実践力を身に付けられるよう努めている。又、AEDを設置。講習も受け、地域に貢献する意識を持っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防による避難訓練は、昼間想定と夜間想定で実施している。設備の定期点検も実施。スプリンクラーの設置も23年に完備。	スプリンクラーや報知器等の設備が完備し、定期点検も実施している。また、昼・夜を想定した年2回の火災避難訓練の実施や火災自動通報が町内会役員に届くよう設定されている。	今後は、計画停電への対応や地震・水害等の自然災害等について検討しているので、その実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。	内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせて思いや希望を引き出せるよう努めている。又、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら納得できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・起床時間は決めておらず、本人のペースに合わせている。食事時間や形態などは本人の希望や体調を優先させている。本人の希望に添った生活をされており、買物や散歩なども支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方に任意している。難しい方は本人に似合う色合いの洋服を選び、その人らしいおしゃれが出来るよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法や味付け等は極力要望に応え、苦手な献立の時には他のメニューに変えるなど臨機応変に対応している。簡単な調理・下ごしらえ・盛り付け・片付けは、本人の有する力と希望に合わせて職員と一緒にやっている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理や下ごしらえ、盛り付けや後片付けをしている。また、出前や外食等の支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、こまめに不足の状態を把握している。食事量の不足や栄養バランスが悪い時には、経腸栄養剤を利用したり、摂取し易い形態にするなどして栄養バランスや脱水の予防に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて、介助・見守り・声かけにて支援している。職員介助による口腔ケアや声かけに努め、食後には必ずお茶を提供することで、口腔内の保清に配慮している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方でも出来るだけトイレで排泄できるように排泄パターンの把握に努め、時間を見て声かけ誘導し、トイレでの排泄を促している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで身体を動かす機会を提供し、水分摂取量も充分考慮しながら便秘予防に努めている。便秘症の方は食物繊維や乳製品を摂って頂くなどして、自然排便出来るよう取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日でも本人が入りたい時に入浴して頂いている。拒否が見られる場合には無理強いせず、気持ちが向くような声かけ・対応にて入浴を楽しめるように工夫している。拒否が続くときには、清拭・足浴・ドライシャンプーを勧めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるように支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間等個々にそった支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファやベンチを置いて、好きな時に好きな場所でのんびり寛げる様に工夫している。又、夜間、眠りにつけない方にはホットミルクを提供したり職員の関わりにて、落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを記録ファイルに閉じており、薬の変更や臨時薬がある場合には業務日誌に記録し口頭でも伝え、全職員が把握出来るようにしている。日の浅い職員などでもわかるように詳しい内容をファイルしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を、無理のないように配慮しながらお願いしている。毎月の余興ボランティアさんの慰問や、日常的にもカラオケやカルタなどで張り合いや楽しみのある日々が送れ、気分転換が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って、職員と一緒に散歩や外気浴、買物に出かけられるよう支援している。外出レクも行っており、屋内だけではなく屋外での楽しみの機会も提供しているが回数的には多いと言えない。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や外気浴、外食や出張出前寿司で気分転換や楽しみごとへの支援を行っている。また、地域のお祭り等の行事参加や児童会館の子どもたちとの相互訪問で戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が管理して小額ずつお渡ししている。支払い時にはその方の力に応じて手助けしている。認知症が重度の方でも職員と一緒に買物に行き、社会性を失わないよう配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るように支援している。手紙でのやり取りは殆どない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には写真や絵を貼ったり等、明るく心地良い環境作りを工夫している。季節折々の小物を飾ったり、季節感も取り入れている。照明を微調整したり、温度や湿度にも気配りしている。椅子の裏にシールを貼り付け不快な音を防ぎ、浴室やトイレも常に清潔を心掛け、不快感なく気持ち良く使用できるように配慮している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、季節毎の飾り付けや行事参加の写真等の掲示で生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。一人になったり、談笑ができる様に椅子やソファが配置されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室以外の場所でも一人になったり、気の合う同士で談話できるように、ソファやベンチを置いて寛げる場所を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、慣れ親しんだ馴染みの物を持って来て頂けるようにご家族にお願いしている。入居後も、家族やペットの写真などを部屋の壁に貼ったり、手作りの小物など本人の気に入った物を自由に飾って頂き、心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家電製品等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアには色分けした名前を貼り、トイレには札を下げて使用中がわかるように工夫している。動きやすい間取りと手すり、自由かつ安全に歩行できるようになっている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	定期的に講習会を開き、知識となっても実践に結びついていない。スタッフの入れ替わりもあり、全員が対応できる状態になっていない。	緊急時でも落ち着いて救命処置やAEDを施せる。	講習会の回数を増やす。マニュアルや対応のフローを適時見直し、活用できるようにする。	1年
2	49	ニーズや利用者のADLの違いにより、外出レクの手がかりが少なく、それを補う家族や地域の人々の協力、資源の活用が不十分である。	外出レクの手がかりが増え安全に屋外の活動を行えるようにする。家族や地域の人々の資源を活用する。	外出レク等の行事担当を決め年間計画を立てる。家族や地域の人々と連絡を取り合い協力を仰げる関係を作る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホーム あかね くつろぎ館		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1-7		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で家事や掃除など一人ひとりの能力に応じ役割を持っていただき、共に助け合いながら生活できるよう支援しています。散歩やレクなどで外出する機会をできるだけ持つとともに、ご近所の馴染みの方や児童館の子供たちなど自由に訪問していただき常に開かれたホームであることを目指しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目につく場所に掲示してある。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方がたに運営推進会議に参加していただいたり児童会館と継続的に交流を持っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	レクの案内を表玄関に張り出したり、急な見学にも可能な限り対応したり気楽に立ち寄っていただける雰囲気づくりに努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その月のテーマごとに自由に意見を出していただきサービスの向上に活かしている。又、福祉関係の情報交換も行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの方とは運営推進会議の際、情報交換を行っている。生活保護の方が多いので担当者への連絡・報告に務めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を共有して仕事に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待の防止についての意識を共有しているが、精神的な虐待についても深めていけるようカンファレンス等で学んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てていなかった。今後、活用できるようにカンファレンス等で機会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけ説明を行っている。改定等の際にも文書にして詳しく説明などを行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関付近に苦情箱を設置している。ご家族が来られた際や電話にてできるだけ懇談の機会を持ち、ご意見、ご要望などをお聞きしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を吸い上げている他、日常的に事務職員や管理者を通し意見や提案がある場合は対応している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の取得や昇給などに配慮があり、今年度からは処遇改善加算交付金も取り入れ一層の充実を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験の受験料や研修の費用を一部会社で負担するなど職員の資質向上を目指している。処遇改善加算チェックシートなどから個々の職員についても把握に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月系列の事業所合同で管理者会議を持ち情報交換を行っている。視野を広げる意味もあり、勤続年数が長い職員を中心に1階と2階で職員の移動を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ情報の収集に努めるとともに、積極的にコミュニケーションを図り信頼関係を築けるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談に来られた際からじっくりとご家族の思いを傾聴し、入居後もできるだけ密に連絡・報告を行い信頼関係ができるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとして本人に必要な支援ができるかどうか考慮している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている一員としてそれぞれの役割を担っていただいている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には本人の日頃の様子を密に伝え、ご家族の力が必要な際には手伝っていただくようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方などが訪問し易いよう雰囲気作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握してできるだけ仲良く過ごせるよう食席など配慮している。会話がはずむよう話題を提供したり孤立しがちな方にはスタッフが関わったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後もお見舞いがたら本人の様子を尋ねたりしている。今後も本人や家族からの相談があれば対応していきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情やしぐさなどからも情報を収集している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り事前の情報収集に努めているが十分でないことが多く、普段の雑談の中からさりげなく情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや申し送りなどで職員間で情報交換を行い入居者の心身の変化を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の談話や懇談の中で本人や家族の意向を知り、主治医とも連携を図りながらカンファレンスを行い、職員間で意見やアイデアを出し合いそれをもとに介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主要な記録には全職員が目を通し共有しながらケアに活かしている。午前中は業務に追われ記録が簡単になりがちなので検討していきたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化という意識は特に持っていなかったが入居者それぞれのニーズにあった柔軟な支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の健康体操のボランティアの方や児童館の子供たちと馴染みになり、散歩に行くと近所の方が声をかけてくれることもある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要があれば家族とかかりつけ医との面談の機会を設けたり、家族への連絡を密にし、納得のいく医療が受けれるよう支援している。本人の希望がある場合は入居後も以前の病院を受診していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは定期的に情報交換を行い、アドバイスをいただいたり可能な範囲で処置などをしていただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供に努めている。入院中も面会時、又は電話で治療の状況を確認したりしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では入居者の心身の状況や家族の希望や状況、他の入居者との兼ね合いの中で対応できるかを個々に判断しており、その旨を入居時に家族にお伝えしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームで年に1回、救急救命講習を行っているが、身につけているとは言い難いので、今後も区の救急救命講習などの機会にも積極的に参加していきたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回のペースで避難訓練を行い地域の方にも参加していただき運営推進会議での結果報告の際にも意見交換をしている。2階の車いすの方の避難誘導の仕方など具体的に詰める必要がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者との信頼関係を築いているが、年月と共に慣れからのぞんざいな口調や忙しさなどからの感情的な言動も時折見受けられる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気易く話せる雰囲気作りができています。入居者が選択できるような声かけを行ない無理のない範囲で希望に沿っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや生活の仕方が把握できておりそれぞれに合わせた生活を支援している。夜勤帯に関しては職員ができる範囲で対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの希望がある方はできる範囲で支援している。身だしなみには配慮ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵え、盛り付け、洗い物などそれぞれの能力に応じたお手伝いをしている。 苦手な食材がある場合は配慮している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人の病歴や希望などに合わせて支援ができています。必要な水分量も無理なく摂取できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導が無理なくできている。痛みや不具合などの訴えがある場合は歯科受診していただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し誘導や促しができている。入居者の高齢化に伴いオムツの使用を減らすことは難しいが夜間オムツの方も日勤帯ではトイレに誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳酸飲料を勧めたりバランスの摂れた食事を提供し、運動の機会も持っているが医師と相談の上、下剤も使用している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々人の希望のペースで入浴できるよう配慮している。職員の配置の関係から時間帯は制限されている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ昼寝などを促している。夜もテレビなどを観てくつろいでいただき、眠たくなってから就寝していただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに薬が処方される際に目的や飲み方については診療記録などに残している。服薬については最後まで確認に努めている。不安がある時はホームだけで判断せず医師の指示を仰ぐようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた役割分担やグループとしての楽しみ事、気分転換の支援はかなり根付いていると思うが、より銘々個々の嗜好についての支援は今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、買い物同行、月に1回程度レクでの外出も行っている。一人ひとりの希望に添うことは難しいが希望者とは毎日畑に収穫に行ったり、家族との受診の際に買い物同行をお願いしたりしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持については入居時に本人、家族と話しあっている。現在は小銭以外は事務所で預かっている方がほとんどであるが、欲しいものなどがあれば買えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族のご理解を得ながらできるだけ本人の希望に沿った支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の様子を観ながらテレビの音量、日差し、温度調整など配慮している。特にトイレや浴室などの温度差が軽減するよう気をつけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席、ソファ、時には玄関ベンチなど寛げる場所があり、遠慮せず平等に使用できるよう声掛けもしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは危険のない限り基本的に自由にお持ちいただいている。装飾も本人と相談しながら支援している。テレビ、ラジオ、本、写真などもそれぞれ希望に応じ備えている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレなどの場所だけでなく、靴、コップなど物の置き場所を一定にできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者と職員が家族的で遠慮のない関係を持っているがともすると馴れ合いからぞんざいな言動が見受けられる。	家族的な雰囲気を大事にしながらも、命令口調や感情的な口調での注意など相手を委縮させるような言動をしない。	カンファレンスで接遇について学習する機会を持つ。職員が自身で接遇目標を設定し、個人評価を行ういそれをもとに管理者と話し合う場を持つ。	1年
2	27	午前中は掃除などの業務に時間を取られ個人の記録が充分とは言えない。	入居者一人ひとりの午前中の様子が把握できる内容の記録が書ける。	午前中の業務を見直し記録の時間を確保する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。